

特別活動事例2 ICTを活用して話し合い活動の充実を図る授業実践事例

議題「卒業までの生活を充実させる取組について考える」

第3学年 (1) - 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

合意形成に向けた  
話し合い活動の充実

1 議題について

(1) 生徒の実態

本学級は、男子17名、女子15名、計32名の学級である。明るく活発な生徒とあまり積極的ではなくフォロワーに徹している生徒がいる。全体的にはよく関わり合い和やかな雰囲気生活している。諸行事においてもリーダーを中心にまとまって取り組むことで成果を残してきた。

一方、役割が固定されてきているため発言者が偏っていたり、リーダー任せになっていたりにしている現状もある。これから学級で過ごす時間が多くなり、受験の不安も募るこの時期(10月)に、学級の雰囲気や人間関係の大切さを再確認し、生徒自ら立案した取組を実行して学級目標の達成に繋がりたい。

(2) 議題設定の理由

生徒は、学校生活の中で様々な話し合い活動を行ってきた。生徒総会や学年総会では、それぞれの立場で建設的な意見を発言できた。また、年度初めの学級会や修学旅行の決まりづくりなど、自分たちの意見が全体に反映され決議されていく経験もある。しかしながら、日常生活の中で自分たちがよりよく生活するために、立案し実際に取り組む経験はあまりなかった。

受験に向けた学習が中心となり、個の活動が増えていくこの時期に最後まで仲間と関わり合い、全員が学級への所属感をもって生活できるようにするためにこの議題を設定した。

2 学級活動(1)の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。<br>合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 | 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。<br>課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 | 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。 |

3 本時までの活動の流れ

(1) 事前の指導と生徒の活動

「目指す生徒の姿」に基づいて多面的・総合的に見取る



| 活動の場面                  | 生徒の活動                                 | 指導上の留意点                             | ◎目指す生徒の姿<br>【観点】(評価方法)              |
|------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 11月18日<br>(水)<br>〇〇タイム | 学級に関するアンケートに回答する。<br><b>ポイント1</b>     | 生徒が素直に書けるようにながす。                    | ◎目指す生徒の姿<br>【観点】(評価方法)              |
| 11月18日<br>(水)<br>給食時   | アンケートの集計結果と日常生活の振り返りをとおして、本時の議題を選定する。 | 結果を分析し、生徒自身が自らの課題を考えることができるように助言する。 | ◎アンケート結果をとおして学級全体の問題について考え、学習への見通しを |

|                        |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|
| 11月18日<br>(水)<br>帰りの会  | 議題を共有し、解決すべき課題や話し合い活動の流れについて見通しをもつ。       | 本時に向けて、学習への見通しとともに、議題に対する自分の考えを持つことができるように助言する。 | もとうとしている。【主体的態度】(観察)<br>◎卒業までの学級生活の充実に向けて、進んで議題の選定をしようとしている。【主体的態度】(観察, アンケート)<br>◎学級役員の役割や話し合いの意義、進行の仕方等について理解している。<br>【知識・技能】(打合せシート, 観察) ※学級役員 |
| 11月19日<br>(木)<br>〇〇タイム | 学級会の話し合いの柱と流れ、1時間の計画等の活動計画を作成する。<br>※学級役員 | 提案理由、役割分担、話し合いの柱を決め、生徒による主体的な運営が可能となるよう支援する。    |   |

(2) 本時の指導と生徒の活動

|                          | 生徒の活動   | 指導上の留意点   | ◎目指す生徒の姿<br>【観点】(評価方法)  |
|--------------------------|---|---|---|
| 議題の確認<br>3分              | 1 議題と提案理由を確認する。<br>・ アンケート結果から学級の長所と課題を踏まえた、本時の学級会の議題と提案理由を確認する。  | ・ 全ての生徒が自分事として主体的に話し合い活動に取り組むことができるように助言する。   |   |
| 「卒業までの生活を充実させる取組について考える」 |   |   |   |
| 出し合う<br>17分              | 2 話し合い活動をする。<br>① 学級で過ごす時間を充実させる取組について、話し合いの視点を共有化する。<br>視点:「全員が関わり合える学級を作るための具体的な取組」を考える。<br>② 視点に基づき、班ごとに取組に関わるアイデアを出し合う。 | ・ 学級役員が話し合いを進める。教師は生徒の主体的活動の支援に当たり、 <b>合意形成の方向付けにかかわる助言は行わない。</b><br>・ 班に1台の端末にアイデアを入力し、Big Pad に転送させる。 | ◎話し合いの視点に基づいた具体的な取組について、根拠とともに発言したり、自分と異なる意見を理解したりしながらより良い方法について考えている。【思・判・表】(発言, 観察) |
| 比べ合う<br>20分              | ③ 各班の発表を聞き合い、班のアイデアをさらに具体化し、実現可能な取組を考える。  | ・ 各班の考えた取組について Big Pad を用いて共有画面に示す。   |   |
| 決める<br>10分               | ④ 学級の取組について合意形成する。<br>3 決定事項を確認する。  | ・ 安易に多数決で決定することなく、できるだけ多くの意見のよさを生かす方法を考えるように助言する。   | ◎出された意見の内容を理解し、多くの意見のよさを生かすことのできる新しい考えを作り出そうとしている。【思・判・表】(発言, 観察)                     |

(3) 事後の指導と生徒の活動

| 活動の場面                              | 生徒の活動   | 指導上の留意点  | ◎目指す生徒の姿<br>【観点】(評価方法)   |
|------------------------------------|---|--|--|
| ○月○日～<br>○月○日<br>給食<br>昼休み<br>帰りの会 | 合意形成した取組について、内容に応じて取組期間と取組時間を決め、実践する。   | 取組の目的を常に意識できるように、決定事項の掲示等の工夫について助言する。  | ◎全員が関わり合える学級を目指して、仲間との交流を深めるための取組を実践している。【思・判・表】(発言、観察)              |
| 2学期末<br>学級活動                       | 取組の成果や課題を話し合い、キャリア・パスポートにまとめる。<br> | 生徒の振り返りに対話的にかかわり、取組による学級の成長や変化に生徒自身が気付くことができるよう支援する。<br> | ◎取組による学級の成長や変化に気付き、仲間のよさを感じたり、さらに交流を深めようとしたりしている。【主体的態度】(キャリア・パスポート) |
|                                    | <b>ポイント3</b> <u>生徒自身が話し合い活動の価値を実感できる評価にする</u>   |  |  |

4 指導と評価の一体化に向けて(授業改善のポイント)

(1) ICTの効果的な活用について

本時では、合意形成に向けて各班で意見を出し合う場面及び内容について比べ合う場面で、タブレット端末とBig Padを活用した。より多くの意見を生かし合い、課題に対してよりよい解決策を見いだすためには、まず出された意見の内容やそこに込められた思いを理解する必要がある。そこで、班に1台のタブレット端末とBig Padを連携し、各班のアイデアの要点を瞬時に共有することができるようにした。その結果、次のような効果が見られた。

【事前の活動】

○従来のアイデアの共有化のための準備(付箋紙、短冊、ミニホワイトボード、画用紙等)が不要となり、教師と学級役員の準備時間が軽減された。その時間を事前の準備における話し合いのための活動計画の作成に充てることができた。

【本時 話し合い活動「出し合う」場面】(▲1, 2参照)

○書き込んだ内容の修正、カードの増減が簡単にできるため、随時書き込みながら話し合いを行うことが可能となり、その結果、より多様な側面からのアイデアが出された。

【本時 話し合い活動「比べ合う」場面】(▲3参照)

○アイデアを共有化するための時間(全員に見えるようにペン等で書く、黒板に貼る、移動しながら見る等)が削減され、話し合い活動に多くの時間を充てることが可能となり、その結果、より全員に納得感のある合意形成が図られた。

○自分の班のアイデアの説明時に、他の班の考えとの共通点や相違点を具体的に挙げながら説明することができた。そのため、多くの班が大切に思っていることや新たな考えが明確になり、合意形成場面における「目指す生徒の姿」の表出につながった。



▲1 「出し合う」場面



▲2 書き込みながら話し合い



▲3 「比べ合う」場面